



業務プロセス改革

従来の業務フローや役割など一から構造的に見直し、業務プロセスの最適化・効率化を図るべく、まず建築設備事業における現状業務の棚卸を行い、業務プロセスマップに整理しました。また、現況書類の改廃・標準化の検討を進め、不要書類の廃止、書類書式の統一・標準化による派生書類の廃止、業務データの保管ルール策定と運用を開始しました。その上で、2024年度は、業務負荷が高く、現場からも改善要望の高い書類作成業務について、既存の現場書類作成支援システム「OctoPus」をベースに改修を施し、操作性・安定性の向上や機能強化を図りました。

ファシリティシステム事業では業務プロセスの整理に着手したほか、管理支援部門にて業務改革プロジェクトを立ち上げるなど、各部門で改革に向けた取り組みを進めています。2025年度はデジタル改革施策の主旨や目的、必要性などの全社的な浸透、業務プロセス整理の効果測定などの施策を推進していきます。

2025年度の
主要施策

- ・「OctoPus」(現場書類作成支援システム)改修版の稼働
- ・建築設備事業部門における改革後の新業務ルール化(業務記述書、基準書)の浸透、定着支援
- ・ファシリティシステム事業、管理支援部門に対する業務改革プロジェクトの推進

デジタル基盤の構築

現行の各種社内システムをあらためて点検し、各システムの役割分担を整理するとともに、新経理システムや営業支援システムの運用を開始しました。また、BIMを活用した業務プロセスの整備と運用に向けた各種検証と実践に向けた取り組みが進捗し、自社開発による「BIM計算連携プラットフォーム」の運用を

DXの推進

始めたほか、これと連動するソフトウェアの開発などを推進しました。

このほか、データ収集基盤の整備と活用やさらなる全社的なICT活用の促進に向けて社内情報ポータル「DX Portal」を開設。生成AIサービスやさまざまなICTツールの紹介などDXに関する最新情報の発信を行うとともに、双方向的な社内連携の場を目指した運用を開始しました。加えて、今後デジタル関連の優れた社内の取り組みはデジタル改革コンテストの開催を通じて表彰し、成果を広く共有する予定であり、その実現に向けて社内規程を含めた体制整備を行っています。

2025年度の
主要施策

- ・DX認定の更新
- ・DX施策の効果測定
- ・生成AIを個人利用から部門利用へ拡大

デジタル人財の育成・強化

今後のデジタル改革を担うデジタル人財を育成・強化するための体制整備に着手しました。2024年度は、独自の「三機ITパスポート」制度による全従業員向けe-ラーニングの開始に加え、デジタル人財を4段階レベルでスキル体系を新たに定義し、各レベルの人財に対してそれぞれ研修を実施しました。2025年度は、これらの研修を継続しながら個々のカテゴリレベル向上を目指していきます。

2025年度の
主要施策

- ・デジタルスキルやリテラシーの向上に向けた社内人財育成施策の実施
- ・DXマネージャー、デジタルインフルエンサーと連携した改善事例の創出
- ・DX e-ラーニング(DXに関する3つのプログラム)の継続

設計・施工現場などにおけるDX事例

各事業セグメントやR&Dセンターを中心とした研究開発の取り組みにより、設計・施工などの各現場においてもDXを推進しています。今後の建設DXの中心的な役割を担うBIMを基盤とした業務フローや業務プロセスの構築に向けた検証を進め、設計から施工における

技術計算のプロセス効率を大幅に向上させる新たなソリューション「BIM計算連携プラットフォーム」を開発し、運用を始めています。加えて、DX推進の取り組みをさまざまな製品・サービスにも活用しており、スタートアップとの協業も積極的に進めています。

各工程におけるDX推進事例

工程	効果	サービス	内容
設計・積算	生産性向上 (作業効率化)	BIM計算連携プラットフォーム	BIMと連携した熱流体解析、管路内圧力、騒音、省エネルギー等の計算
		BIM・見積ソフト連携	BIMと連携した見積積算
		クラウド(AI-OCR)	OCRを用いた機器表説取りによる積算業務効率化
	省人化	機器3Dモデル作成ソフト(TRANDIM™)	納入仕様書より機器3Dモデル自動作成
原価・受注検討	人財確保	現場要員配置計画システム	担当者の現場配置管理
施工	生産性向上 (作業効率化)	現場書類作成支援システム(OctoPus)	業務プロセスに応じた書類作成、ワークフローシステム
		調達WEB	Webを利用した発注業務
		納品・出来高請求書WEB	Webを利用した検収業務
		オフィスレイアウト自動化システム(S-LIDAR®)	オフィスレイアウトの自動生成、概算費用算出
		資機材位置検知システム	資機材の配置場所を自動検知
	省人化	施工管理支援システム	BIMを利用した工事進捗、発注納品管理
検査	省人化	小型撮影用ドローンによる3Dモデリング	ドローンによる3Dスキャナ、BIMデータ作成
		施工ロボット	BIMと連携したフレキシブルダクトの自動吊込み
その他	省人化	計測ロボット	BIMと連携した風量、風速、照度自動測定
その他	生産性向上 (作業効率化)	エスクラウド(VDI:仮想デスクトップ)	大容量なデータ(BIM、点群などの大規模な3Dデータ)を快適に操作
		生成AIの活用	情報検索、Excel作業の効率化・自動化、文書作成など

Focus

2D図面から3Dモデルを自動生成するソフトウェア「TRANDIM™」を開発

当社は、建設業界における課題である長時間労働削減と高品質施工の両立に向けて、設備機器の2D図面から3Dモデルを自動生成するソフトウェア「TRANDIM™」を、東京大学発のスタートアップ企業である株式会社WOGOと共同開発しました。

建設業界では設計・施工段階でのBIM導入が進んでいますが、ボイラーや冷凍機といった大型熱源機器のメーカーでは3Dモデルを提供していないためにユーザー側で作成の必要がありました。「TRANDIM™」は、2D設備機器・器具図面データを取り込むことで、3Dモデルの自動生成が可能。これにより、従来2~7時間要していた3Dモデル作成時間を最大90%削減が可能となり、大幅な生産性向上と品質の安定化が見込めます。開発したソフトウェアは、グループ会社の三機キャドケンドロ株式会社と共に社内に導入を進めるとともに、建設設備業界発展のため、2026年度中の製品化・販売を予定しています。

